

日中における『聊齋志異』「画皮」の受容と変遷

近代の妖怪学の隆盛から現代まで

文学研究科

アジア都市文化学専攻

杜 一葦

目次

- 1、はじめに
- 2、『聊齋志異』の日本における受容
 - 2.1 『聊齋志異』について
 - 2.2 日本に伝わる歴史
 - 2.2.1 江戸時代の翻案作品
 - 2.2.2 近代に入ってから受容
 - 2.2.3 『聊齋志異』が普及した理由
 - 2.3 『聊齋志異』「画皮」の日本語翻訳について
- 3、「画皮」の鬼と日中の「鬼」について
 - 3.1 日中の「鬼」の概念について
 - 3.1.1 日本の「鬼」の概念
 - 3.1.2 中国の「鬼」の概念
 - 3.1.2.a 従来の研究による中国「鬼」の定義
 - 3.1.2.b 「鬼」の原義
 - 3.1.2.c 卜辞から現れる「悪鬼」
 - 3.1.2.d 追儼から見る鬼のイメージ
 - 3.2 『聊齋志異』「画皮」にみる鬼
 - 3.3 「画皮」の類話から見る「鬼」
 - 3.4 「画皮」の「鬼」の日本語訳とその合理性について
- 4、中国近代以降の妖怪学から現代「画皮」の受容と変遷
 - 4.1 井上円了の影響を受けた清末から民国初頭の妖怪学
 - 4.1.1 井上円了の妖怪学
 - 4.1.2 井上円了の『妖怪学』を模倣した『尋常小学校妖怪学教科書』
 - 4.1.3 蔡元培の妖怪学と井上円了
 - 4.2 新文化運動における妖怪学
 - 4.2.1 心霊学に対する関心
 - 4.2.1.a 科学として「心霊学」を初めて紹介した『東方雑誌』
 - 4.2.1.b 迷信とみなされた『靈学叢誌』
 - 4.2.2 心理学としての妖怪学
 - 4.2.3 民俗学としての妖怪学
 - 4.2.3.a 江紹原の迷信学と井上円了

- 4.2.3.b 怪異に対する関心を持つ周作人・魯迅と柳田国男
- 4.2.4 神話学としての妖怪学
- 4.3 70年代から現在にいたる神話学、鬼学、妖怪学
- 4.4 現代中国における「画皮」の受容と変遷
 - 4.4.1 映画・ドラマ化した「画皮」
 - 4.4.2 映画・ドラマ「画皮」の中の鬼
 - 4.4.3 「画皮」の庶民の中での人気と中国における鬼のタブー視

5、おわりに

謝辞